

都内中小企業 × デザイナーによる新ビジネス創造型のデザインコンペティション

2021年度「東京ビジネスデザインアワード」テーマ12件を発表

立体質感印刷から音声テクノロジーまで、幅広い分野から個性的な素材・技術が選出

テーマに対するデザイン提案募集開始

募集期間は9月6日(月)～11月3日(水・祝)、オンラインにて企業との相談会も開催

東京都内の中小製造業活性化策として東京都が主催し、公益財団法人日本デザイン振興会(会長:川上元美、所在地:東京都港区)が企画・運営を行う東京ビジネスデザインアワードは、本年度のアワードの「テーマ」として選出された12件を発表し、デザイナーからの提案応募の受け付けを開始します。

本年度10回目となる東京ビジネスデザインアワードは、中小企業から募集した「テーマ」を活用した新規用途開発やビジネス全体へのデザイン提案をデザイナーから募るコンペティションです。2012年の開始以来、総企業テーマは延べ105件、デザイナーからの提案は延べ1300件以上、マッチングからは20件以上の商品化や協働事例が生まれ、現在も複数のプロジェクトが進行しています。

2021年度の「テーマ」には、コロナ禍にも関わらず前年を上回る数の企業応募があり、その中から木材や立体質感印刷、AIを導入した音声テクノロジーまで、幅広い分野から12件が選出されました。

2021年度 テーマ一覧 ※各テーマの詳細は3、4頁をご参照ください	
1. エコな木質素材	B級木材も利用可能、木材を繋ぎ合わせて作る新たな木質素材
2. 電子回路設計・加工技術	回路設計をはじめとする、一気通貫で多様なものづくり体制
3. メタル加工技術	機械化と手作業両方の利点を生かした、自由度の高い溶接技術
4. マグネシウム切削加工技術	10年以上にわたる実績、安全で最適なマグネシウム切削加工技術
5. 紙器設計技術	のり貼り不要、少ない部品でエコな紙器設計が実現可能
6. 色と質感表現の印刷技術	色に「質感」表現の要素を加え、鮮やかな表現を提案
7. さとうきび由来の再生素材	さとうきびの搾りかすが、日本の伝統的なものづくり技術で蘇る
8. 製本加工技術	数百、数千におよぶデザインの可能性で製本のイメージを覆す
9. 工業ゴム精密加工	精密な加工工程をワンストップで実現し、多様なニーズに対応
10. 裂地縫製技術	高い技術力を必要とする、裂地の縫製技術
11. 完全不燃の外壁素材	800°Cの高温下でも耐える固定力を持つ、不燃性の外壁材
12. AI声質変換技術	リアルタイム変換技術で、「声」の可能性が無限に広がる

このたび、「テーマ」として選出された企業の技術、素材などに対してデザイナーからの提案を募ります。デザイン提案募集期間は9月6日(月)から11月3日(水・祝)までです。期間中は、デザイナー向けに応募説明資料公開や企業とのオンライン相談会も実施します。

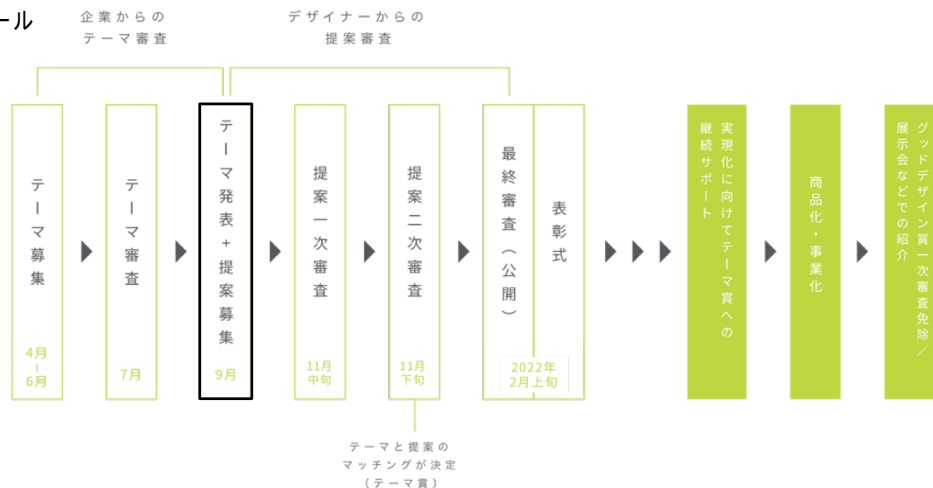
企業の「テーマ」とデザイナーの提案マッチング成立後は、実現化に向けての協働がスタート、プレゼンテーション方式の最終審査を経て、2022年2月に最優秀賞・優秀賞を決定します。

※「2021年度 東京ビジネスデザインアワード・デザイン提案募集概要」とオンライン相談会については次頁をご参照ください。

【2021年度 東京ビジネスデザインアワード・デザイン提案募集概要】

- デザイン提案募集期間：2021年9月6日（月）～ 11月3日（水・祝）
- 応募資格：中小企業との協業に意欲のある国内在住の個人またはグループ
- 応募費用：無料 ※ただし、通信費や提案の制作に伴う実費等は応募者負担
- 賞・賞金：最優秀賞（1点） 賞金100万円（企業、デザイナーにそれぞれ50万円）
優秀賞（2点） 賞金各20万円（企業、デザイナーにそれぞれ10万円）
テーマ賞（1テーマにつき1点）※審査の結果、該当なしとなる場合あり
- 主催：東京都/企画・運営：公益財団法人日本デザイン振興会

2021年度の主なスケジュール



2021年度 審査委員



審査委員長
山田 遊

パイヤー
株式会社メソッド
代表取締役



石川 俊祐

デザインイノベー
ション
KESIKI INC. 共同
創設者



宇南山 加子

デザイナー、ディレ
クター
株式会社SyuRo
代表取締役



小池 美紀

PR & コミュニケー
ションディレクター
株式会社ハウ
代表取締役



日高 一樹

特定訴訟代理
人・弁理士 /
デザインストラテジ
スト
日高国際特許
事務所所長



坊垣 佳奈

株式会社マクア
ケ
共同創業者 / 取
締役

【デザイナー向け 応募説明資料公開・企業によるオンライン相談会の実施について】

応募を検討するデザイナーを対象に、応募方法の説明、FAQ集を公式ウェブサイトにて公開しています。また、各テーマ企業によるプレゼンテーション動画を9月17日（金）に公開します。10月上旬に開催予定の各テーマ企業とのオンライン相談会（事前申し込み・先着順）に関する詳細、申し込み受け付けも同日に開始予定です。

詳細：www.tokyo-design.ne.jp/award.html

東京ビジネスデザインアワードの特徴

・製品デザインにとどまらない、「ビジネスモデル」のデザイン提案機会

商品単体ではなく販売やサービス、コミュニケーションプランをも含めた提案により、経営層とタッグを組み協業する機会を提供。経営資源活用やブランド構築の経験、実績を積み上げることができる。

・専門家、事務局によるサポート体制

各分野の専門家で構成される審査委員会によるアドバイス（商品開発、知財戦略、デザイン契約、販路開拓等）を通じ、アワード終了後も商品化、事業化に向けた支援および相談機会の提供を受けられる。

・商品化、事業化への豊富な実績

これまでにマッチングした企業とデザイナーによる提案実現事例は20件を数え、国内外で60万件以上を売り上げる商品も誕生。

2021年度 東京ビジネスデザインアワード テーマ概要(12件)

各テーマの詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。 <https://www.tokyo-design.ne.jp/award.html>

1. 木材を木ダボでつなげてつくるエコな「木質素材」 株式会社長谷萬(江東区)



「DLT」とは、接着剤を使用せず木ダボのみで接合する木質素材。木材を並べて穴を開け、木ダボを打ち込むというシンプルな製造工程のため、各地域の中小製材事業者でも製造しやすい素材である。日本の森林資源は現在利用期を迎えており、国内でDLTの普及が進めば、地域活性化に貢献が可能。丸みや皮付き材などのB級木材を使用することにより、木材有効活用や山側への利益還元も期待ができる。

2. 電子回路とプラスチックの「設計・試作・加工技術」 泰興物産株式会社(立川市)



電子回路設計から製品設計、金型製造、射出成形まで自社内で実施する企業の技術。アイデアをカタチにするのを得意としており、回路設計用CAD、3DCAD、3Dプリンタ、MCセンター、ワイヤー放電加工機、旋盤、射出成形、UVインクジェットプリンタ、レーザー加工機、レーザーマーキングなどを所有。若手技術者を中心として、設計・試作過程はほとんどの加工を社内で対応。柔軟な発想でものづくりに取り組んでいる。

3. 大小多彩に加工できる高度なメタル加工技術 株式会社葵製作所(八王子市)



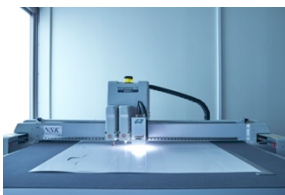
50年前の創業当時から、高い溶接技術の下に大型の構造物の製作を続け、時代の流れとともに機械化されていく中でも、手作業による溶接作業を重視してきた企業の加工技術。数値化されない感覚を丁寧に次世代へと継承し、現在では機械化と手作業両方の利点をいかして、板金工作の自由度を存分に発揮することで広範囲の要望に応え続けている。

4. マグネシウム合金の高精度な切削加工技術 セキダイ工業株式会社(大田区)



主に金属の切削加工によりさまざまな素材、形状の製品を制作する企業。中でもマグネシウム合金の切削加工においては、発火リスクのコントロールや素材の管理等で加工を断るメーカーが多い中、多くの納入実績を築いている。マグネシウム合金は、実用金属の中で最も軽量、かつ強度が非常に優れている、衝撃吸収性が高い等、数多くのメリットがあるため、自動車部品等さまざまな工業製品でアルミに代わる素材として、導入が進められている。

5. のり貼り不要、再使用も可能な「紙器設計技術」 株式会社協進印刷(世田谷区)



成形のためののりやステッチを使用せずに、トレー状や箱型に加工することができる紙器設計技術。紙器は容易に解体でき、繰り返し使用可能。工業製品だけでなく、知育玩具や付加価値の高い製品などより多くの展開を見込める。紙器設計として使う人に分かりやすく、製造面においては製造しやすくロスが出にくく無駄をつくらないこと。環境面においては(less is more・より少ないことはより豊富)を心掛け、より少ない部材で求められている設計を行う。

6. 広色域の印刷表現と立体的質感を表現する印刷技術 株式会社新晃社(北区)



Kaleido Plus®のインクを用いた印刷は、テレビの画面やPCのモニターで表現されるRGBの広い色表現領域を、オフセット印刷の4色機でも再現することができる広色域の印刷方法。これにより、鮮やかな自然の色合いを再現した印刷物を作ることが可能となる。擬似エンボス加工は、UV印刷機で印刷する表面ニス加工により、印刷物の表面に質感という感触の要素を加える。多彩な手触りを実現できる、デザインの表現が広がる技術である。

7.さとうきびの搾りかすから生まれた「サスティナブル素材」 株式会社Rinnovation(文京区)



世界最大の農作物であるさとうきびを原材料に、サスティナブルな繊維や生地へとアップサイクルすることが、世界規模で重要な取り組みになると可能性を感じ、さとうきびの搾りかすで、未利用資源である「バガス」を原材料とした素材を開発。日本の伝統的なものづくりの技術を独自に掛け合わせ、バガスからパウダー化、和紙、スリットの工程を経て和紙糸を生成し、その和紙糸とcotton USAで生地を織布している。

8.アパレル向け生地を活用したオリジナル「製本加工技術」 株式会社新里製本所(文京区)



製本事業者は年々数が減少する一方、製造設備の投資効果に見合わないため新規参入もなく、業界全体としても打開策が必要な現状である。特徴がある上製本での製造技術への認知を一般の消費者や事業者に向け、より高める事業展開を検討し、外装をアパレルのような生地を使って多色展開できないかとの思いに至る。生地をノートに加工する技術を自社で保有していたことで、サンプル品を製造し、実現可能性を確信。製本業界の新たな可能性を見いだす。

9.航空・宇宙業界でも採用される高度な「工業ゴム精密加工技術」 株式会社東金パッキング(東村山市)



大型裁断機、カッティングマシン、超精密塗布ロボット、UVインクジェットプリンタ、レーザー加工機等のさまざまな加工設備を保有。これらを活用し、ゴム、樹脂類への精密切断および彫刻加工、対象物へ精密に液剤を塗布する加工、フルカラー印刷加工等をワンストップで実現することが可能である。さらに、創業以来40年にわたりノウハウを積み重ねてきた手加工があり、細かい接着、貼り合わせ等も得意としている。

10.業界の未来を担う「裂地袋物縫製技術」 有限会社プレジュール(世田谷区)



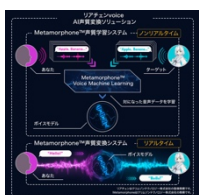
裂地素材は革のような伸縮性に乏しく、ヘリを返す必要等もあり、制作においてきっちりとした型紙作りが必須になるなど、高い技術力が必要とされる。一人の職人が型紙作りから仕上げに至るまでを担当し、皇室向け製品の制作を行うほど、技術力の高さは評価されている。しかし、職人の中で最も若い者でも69歳。若い担い手の不足は顕著で、技術の承継は最後のチャンスともいえるほど差し迫っている。一人でも多くの方にこの技術について知ってもらい、魅力あふれる商品を生み出すことで、若年層が憧れる職業へと変貌を遂げることを目指す。

11.災害に強く安全性の高いビル外壁の「完全不燃化技術」 FSテクニカル株式会社(葛飾区)



従来のビル外壁の改修技術はいずれも300℃以上の温度でその固定力は著しく低下する。特にエポキシ樹脂の固定力は290℃でゼロとなってしまう、火災に対する備えにはまったく適していなかった。これに対し、この工法は、可燃性であるエポキシ樹脂の代わりに不燃性材料であるセメントスラリー(セメントと水との混合液)を注入剤として採用。800℃の高温下でも壁面への固定力は十分に確保できることに加え、完全な不燃性を実現している。

12.ユーザーの声をリアルタイムに変換する「AI声質変換技術」 クリムゾンテクノロジー株式会社(世田谷区)



ユーザーの声をさまざまな声にAIでリアルタイム変換する技術。機械学習でキャラクターの声の特徴量を抽出することにより、ユーザーの声を変換する。音質をより良くするにはユーザーの声とキャラクターの声、両方の学習が必要となるが、汎用(はんよう)的にさまざまな人の声をキャラクターの声に変換することができる。現在はWindows、macOSのアプリケーションとして展開中。

「東京ビジネスデザインアワード」主な提案実現事例

これまでにマッチングした企業とデザイナーによる提案実現事例は20件。
販売商品が国内市場はもとより海外でも好評を博するなど、実績を重ねています。

「MASKING COLOR」 2012年度 テーマ賞

太洋塗料株式会社[大田区] × 小関隆一[RKDS]

乾くと剥がせる保護膜を作るための産業用塗料を、一般向けの「塗って剥がせる水性絵の具」として発売。これまでになかった新感覚の塗料として話題を呼びヒット商品となる。2015年にマスキングカラーPROを発表。

<https://maskingcolor.com/>



「FROM NOWHERE」 2014年度 最優秀賞・テーマ賞

カドミ光学工業株式会社[日野市] × 三浦秀彦、久保井武志[クラウドデザイン]

光学ガラスの特徴を生かした無宗教式にまつる「祈りの道具」。少子化や核家族化に伴って墓や仏壇を取り巻く環境が変わる中、現代のライフスタイルに合った新しい供養の様式を提案している。

<http://www.fromnowhere.jp>



「irodo」 2017年度 最優秀賞・テーマ賞

株式会社扶桑[葛飾区] × 榎原美歩[株式会社GoodTheWhat]

さまざまな生地素材にアイロンなしで貼れる転写技術を用い、ユーザーが気軽にDIYやリメイクに活用できるシート。熱源を使わないため年齢を問わずに楽しめる。「生地をカスタマイズする」という今までにない新しい文化を発信している。

<https://irodo.tokyo/>



「香の具」 2018年度 優秀賞・テーマ賞

GRASSE TOKYO株式会社[江東区] × 清水覚、山根準、山根芽衣、安次嶺彩香

100%天然のエッセンシャルオイルと塗料を混ぜ合わせた新しい絵の具ブランド。絵の具の色を混ぜるように、自分で調香して、香りのしゅみを学ぶことができる。ブレンドという切り口で、香りを楽しむ生活に取り入れるきっかけを提案している。

<https://kanogu.tokyo/>



「METALFACE」 2018年度 最優秀賞・テーマ賞

株式会社技光堂[板橋区] × 今井裕平、林 雄三、木村美智子、鈴木杏奈 [kenma Inc.]

樹脂素材に金属調の特殊印刷を施す技術を多面的に生かした、ビジネスモデルの提案。次世代のプロダクトデザインの課題を解決する画期的な技術で、現在、IT プロダクト向けのインターフェイス「METALFACE」として、プロジェクトが進行中。

<https://www.metalface.tokyo/>



「PageBase」 2019年度 テーマ賞

株式会社研恒社[千代田区] × 今井裕平、林 雄三、高橋良弘、鈴木杏奈、鄭眩采 [kenma Inc.]

企業の持つ技術を応用し、新規プロダクトとサービスにより新たな市場をつくり発展させていく提案。現在、スライド式ルーズリーフバインダー「SlideNote(スライドノート)」と、自分専用のオリジナルノート用紙を購入できるECサイト「Paper&Print」を展開中。

<https://www.metalface.tokyo/>



全ての実現事例はオフィシャルサイトにて公開しています。

<https://www.tokyo-design.ne.jp/example/>